

1 単元 私たちの暮らしと民主政治（公民的分野）

2 本単元の指導にあたって

○生徒観

本学級の生徒は、歴史学習において、17世紀イギリスにおける市民革命で議会在政治の主導権を握り、いち早く議会制民主主義が確立されてきたことを学習している。国家体制の変革をもたらした政治の崩壊は、18世紀のアメリカの独立やフランス革命等から、貴族や農民、町人や奴隷からの視点をふまえ学習してきた。近代社会の根幹である基本的人権の確立や民主的な市民社会の成立につながるこれらの学習は、つくる場・ふかめる場としての自分の考えを伝え合うグループ活動で、当時の政治背景や人々の生活を推測しながら、運動や革命等に至るまでの社会全体の動きと合わせ学んできた。そこで本単元では、まず、国政への基本的な考え方及び議会制民主主義について、国会や地方自治の場での民主主義のしくみと関連させながら、政治への見方や考え方の基礎をとらえることができるようにする。これは、将来、生徒が主権者のひとりとして国政や地方自治政治に参画する意欲を高めることにつながると考える。

○教材観

本単元の教材は、日本国憲法における三つの柱のひとつである国民主権の概念を理解させる教材である。絶対王政・専制政治・王権神授説・市民革命・普通選挙制度等にふれながら、近代市民社会が成立していく過程は学習している。そこで本単元は、これらの学習をふまえた上で、近代市民社会の中での民主政治の基本となる考え方、組織のしくみや役割を理解させることをねらいとしている。代表民主制については、選挙制度と国会のしくみの学習を通して、主権者としての政治への参加については、住民自治、世論と政党、国会、内閣、裁判所の学習を通して理解を深める。まとめの段階で三権分立図を取り上げ、図の中心に国民が位置づけられている意味をとらえさせる。本教材の学習は、国民から選ばれた代表者により、国が治められていることを把握し、主権者として、国や地方自治の政治とどのように関わるのか、関わっていくべきかを考えさせる単元である。これは次単元の暮らしと経済の学習においても、政府の経済政策、労働者や消費者の権利、社会保障制度等で日常生活と関係する。

○指導観

本単元の指導においては、既習学習をふまえ、民主主義発展の成立背景や国政の全体的なしくみと役割について確認する。そのために、単元全体を貫く学習課題として、第一次「私たちは民主主義の優れた点を生かすためには、どのような工夫が必要だろうか」第二次「私たちは、裁判がなかったらどう困るだろうか」第三次「私たちの地域にできることは何があるだろうか」の三つの視点に分けて学習を進める。グループ内で選挙公約を練り、政党を結成させて選挙を行ったり、裁判官・弁護士・検察官・原告被告等の役割を決めて模擬裁判を取り入れたりしながら、政治を身近なものとして感じさせる活動を行いたい。政治との具体的な関わり方を理解させる。

本時の指導にあたっては、地方自治に関心を持たせ、自分たちの地域に必要な活動、住民が望む活動は何かを考えさせながら「地域の魅力を高め、人を集める方策」をまとめることができるようにする。そのために、まず「三輪スタンダード(以下三輪スタ)であう段階」のパターン③「不十分さに気づく」で、税金と地域(地元)政治との関係に気づかせたい。消費税の一部は地域(都道府県・市町村)へ還元されることから、税率上昇による全国小中高校生の小遣いから負担増となる税総額を算出させることを通して、地域政治への関心を高める。次に「三輪スタつくる段階」において他自治体の住民資料を参考にしながら、BS法を用いて、自分たちの地域向上に必要な方策を検討する。自分たちの暮らしの中で息づく政治に着目させながら、グループで「魅力ある地域地元にするための具体策」をまとめる。そして「三輪スタふかめる段階」において、順位づけと理由づけを行い全体で発表させる。他者の意見を参考にして、政治に対する具体的で新しい働きかけ方や必要な活動等が想起できるように出た意見をつなぐ。最後に「三輪スタふりかえる段階」において、学習まとめの時間を設定し、生徒が交流・学習した内容を確認できるようにする。個々の発想や表現を幅広く集約できるように、振り返りシートの発問や記述方法の工夫を図る。

3 目標

(1) 主権者として憲法の国民主権の概念を理解するために、代表民主制のしくみの把握と国や地方自治体の政治への参加手段をとらえることができるようにする。

(知識及び技能)

(2) 主権者として、代表民主制について選挙制度や国会のしくみ等を通して考察し、政治参加については、国会、内閣、裁判所、住民自治等との具体的な関わり方を、三権分立図からその全体像をとらえ、説明できるようにする。

(思考力、判断力、表現力等)

(3) 国民の政治への参加方法として、選挙、政党政治、世論があることを確認させ、主権者のひとりとして政治参加や社会参画に関わろうとする態度を育てる。

(学びに向かう力、人間性等)

4 指導計画（総時数 19 時間）本時⇒●

次	学習活動・内容	主 眼	三輪スタの活用方法
一 次 ・ ⑨	① 民主主義の発展について、歴史の既習学習から関心を高める。	○歴史的な背景をふまえて、民主主義が広まった経緯に関心を高めることができる。	三輪スタ（であう①） ・歴史学習を振り返ることによって、公正の視点から多数決の原理について関心を高めることができる。
	② 投票をする意味について考える。	○国民の意思を国政に反映する意義について理解することができる。	三輪スタ（つくる） ・国会議員選出方法を比較させることによって、国民の意思を反映させるための工夫について理解できる。
	③ 様々な政党が存在する理由について理解する。	○議会制民主主義における政党の役割を理解することができる。	三輪スタ（であう①） ・政党が複数存在する良さや課題に気づくことによって、各党の立場や国民の意思への配慮を理解できる。
	④ 情報化社会における世論のあり方について考える。	○世論と民主主義の関係について考えることができる。	三輪スタ（つくる） ・新聞記事や世論調査の結果を考察することによって、世論やマスメディアの正しいあり方を説明できる。
	⑤ 国権の最高機関としての役割を理解する。	○国会の役割と課題について理解することができる。	三輪スタ（つくる） ・国会の地位や仕事を調べることによって、法律案の議決や他の役割を理解できる。
	⑥ 国会議員の役割に関心を高める。	○衆参両国会議員の役割や活動に関心を高めることができる。	三輪スタ（であう①） ・国会議員の特権や待遇を知ることによって、国民の代表である国会議員の活動に興味を持つことができる。
	⑦ 政党結成し自らの公約を話し合い発表する。	○政党の役割、選挙制度のしくみを理解することができる。	三輪スタ（ふかめる） ・政党を作り、公約を練ることによって、学校の課題や選挙制度に理解を深めることができる。
	⑧ 日本の議院内閣制の特徴を理解する。	○議院内閣制の特徴を理解することができる。	三輪スタ（ふかめる） ・内閣組閣記事や閣議前の写真を提示することによって、内閣の構成が理解できる。
	⑨ 行政の課題の変化に関心を高める。	○内閣の仕事としくみについて関心を高めることができる。	三輪スタ（であう①） ・内閣の仕事内容について調べることによって、現状と改善すべき課題を見出すことができる。

二次 ・ ⑤	⑩ 裁判の働きについて関心を高める。	○法による裁判と権利の保障との関連性について関心を高めることができる。	三輪スタ（であう①） ・裁判所のある市町村に注目させることによって、裁判所の種類と役割を理解できる。
	⑪ 民事裁判と刑事裁判の違いについて、模擬裁判の資料から読み取る。	○民事裁判と刑事裁判の目的や流れについて、資料から読み取ることができる。	三輪スタ（ふかめる） ・裁判と関わる職業に焦点をあて、訴訟原因・裁判関係者・判決の流れの視点から違いを説明できる。
	⑫ 裁判に時間がかかる理由を理解する。	○法に基づく公正な裁判の意義と課題を説明することができる。	三輪スタ（つくる） ・公正と効率面から裁判を検討することによって、三審制について説明できる。
	⑬ 一般市民と司法が交わる必要性について話し合う。	○司法制度改革の目的について、公正と効率の視点から考察することができる。	三輪スタ（ふかめる） ・裁判員制度によって、国民の視点や感覚を司法に生かす意義について考察できる。
	⑭ 三権分立のしくみを理解する。	○三権分立の特色について、その関係性を資料図をもとに、説明することができる。	三輪スタ（ふりかえる） ・三権分立図によって、その中央に国民が位置づけられていることを理解できる。
三次 ・ ⑤	⑮ 自分の住む地域の課題を見つけて関心を高める。	○自分の住む地域の現状を見つめ、課題解決について関心を高める。	三輪スタ（であう③） ・地方自治が、民主主義の学校と呼ばれる意味を理解できる。
	⑯ 地方財政の現状を資料から読み取る。	○地方自治の特色や地方財政の特色について、資料から説明することができる。	三輪スタ（つくる） ・筑前町や近隣市町村の財政を知ることによって、課題が全国的な傾向と一致することに気づくことができる。
	⑰ 住民の権利について考える。	○直接請求権や住民投票等の権利について理解することができる。	三輪スタ（ふかめる） ・新聞報道等を参考に、直接請求権の種類や手段について理解できる。
	⑱ 地域の課題とその解決の方向性について話し合う。	●住民が望む地域政治について、地域の魅力を高め、人を集める方策をまとめることできる。	三輪スタ（つくる） ・地域づくりについて意見交換をすることによって、新しい地域発展の構想を練り、まとめることができる。
	⑲ 私たちの地域で出せることは何かを、振り返る。	○地方自治体に共通する課題とその背景を考察することができる。	三輪スタ（ふりかえる） ・各地方自治体で行われている政策や活動を確認することによって、地域の取組みを振り返ることができる。

5 本時の授業評価指標（ルーブリック）

三輪スタンダードで重視する段階（つくる段階）			
より良い地域づくり（地域の魅力向上の視点）について、班内で意見交換をすることによって、地域発展・地域おこしのための新しい構想を練ることができるようにする。			
評価項目	C	B	A
ねらいの達成状況	より良い地域づくりのために、必要な条件やアイデアを、他の生徒と共に話し合っている。	より良い地域づくりのために、必要な条件やアイデアを、自ら考えとして提案している。	より良い地域づくりのために、必要な条件やアイデアを、複数の視点から具体的に提案している。

目指す子どもの姿 (発言・行動等)	地域づくりについて、話し合いに参加し、班内で一緒に考えることができる。 (行動・記述) ▼「若者には遊園地が欲しいな」「温泉が出ると高齢者は喜ぶかも」	地域づくりについて、資料を基盤とした案を、班内で発表できる。(行動・記述) ▼「町内巡回バスを増便する」「働く者のために新しい保育園の建設」	地域づくりについて、資料や他の意見から、連想発展させた具体案を、班内で発表できる。(行動・記述) ▼「小説題材・映画ロケ地として地域活用」「個性化した学校として魅力発信」
評定	評定の根拠		代案

6 本時案

- (1) 主眼 主権者として地方自治に関心を持ち、自分たちが望む必要な活動をふまえながら、地域（地元）の魅力高め、活性化のための方策をまとめることができる。
- (2) 日時 令和2年10月30日(金) 第5校時 於：第3学年〇組教室
- (3) 学習の展開 (50分)

	主な学習活動	三輪スタの工夫	時
であう	1 学習課題を把握し、本時のめあてを確認する。 (1) 課題を提示し、学習内容を確認する。 学習課題 全国の小中高校生が、新たに自分の小遣いから負担する消費税の総額を計算しながら、増収分の金額を、地方政治で、何にどのように使うべきなのか？をまとめよう。 問「全国の中学生は、新たに（昨年10月以降）どれぐらい多く、消費税を納めることになったのでしょうか？」 (2) 本時のめあてを確認する。	○消費税率変更による新たな負担額を中学生の小遣いを通して、計算させることで関心を高める。 ○中学生からの税増収総額をつかみ、政治と税金が身近に関係していることに気づかせる。また、全国小中高校生からの負担増総額を知ること、地方政治へ興味を持たせる。	⑩
つくる	2 地方自治体への小中高校生からの増収分に対する使い方を個人とペアで検討する。 <u>考えをつくる活動</u> 問「地域（地元）の活性化のために、新しく増えたお金をどのように、何に、使いますか？」 (1) 発想シートを活用しながら個人→ペアで検討する。 (2) 班で交流後、優先順位をつける。	○大分県別府市「自治体への住民要望資料（一部改）」を土台に構想を広げる。現状と照らし合わせる。 ○鍵ワード「地域の魅力を高め、活性化案＝人が集まる地域地元づくり案」として、中学生の着眼点を大事にする。	⑩
ふかめる	3 班別に発表を行う。 (1) 班内で1～2案選択し、理由をつけて述べる。	○鍵ワード「地域の魅力を高め、活性化案＝人が集まる地域地元づくり案」として、中学生の着眼点を大事にする。	⑩
ふりかえる	4 学びを振り返る活動を行う。 (1) 各案実現のために、必要な条件、共通した背景について確認する。 (2) 全体意見を参考に、本時の振り返りをする。 地方政治は全国同様な課題を持つ主権者として、魅力＝活性化＝人口増加＝財源確保につながるための知恵をしぼり、地域が衰退しない方策を練ることが大切だ。まずは、税金を納めている自らの地方政治に関心を持つべきである。	○財源確保のために努力する地方の現状士を説明する。 ○個々の発想や学習記述を広く拾うためにワークシート記入欄を工夫する。	⑩

